

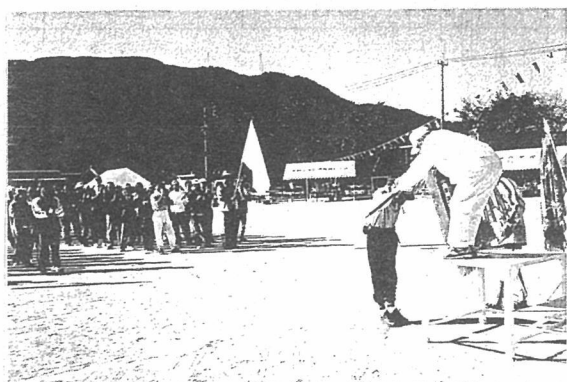
公民館だより

No. 80

ひがしの

2003.12.

人口 1,830 人
(男) 895 人
(女) 935 人
世帯数 552 戸
(H15.12 1 現在)



今秋(10月～11月)東野の里において様々なイベントが行われました。

振り返ってみよう。

体育祭(10月19日)

—自治会長会議—組分け(チーム)を替え、走る競技を少なく、ゲーム的な種目を取り入れることとして開催される、天気も良く、やってよかった—の声。

歌舞伎(10月26日)

—自治会長さん始め各界への協力願い、役者の依頼、大小道具、プログラム等準備、役者は連日練習(稽古)—開演、手際よい舞台づくり、ご祝儀の張り紙、お客さんの拍手、野次とおひねりが励みになったようです。

音楽祭(11月2日)

—もう8回を数える、今年もステージに工夫を凝らして、客席には初めての人、東野以外の人も多く見受けられる、来年も是非—とも、マナーが少々—とのコメントを頂いたがこれも「ふれあい」、「発育途上中」ということで許容範囲と願おう。

文化祭(展示物)(11月2～3日)

—幼稚園入園前(すくすくクラブ)の作品から東雲会(60歳以上)まで、広い年齢層の書画、工芸、写真、生け花、盆栽等各種の作品、お茶の接待も—

特別展示室では今は故人となられた方々などの尋常小、高等小時代の作品に懐かしく2回3回と見入る人、カメラに収める人。

それぞれの部門で実行委員会の皆様ご苦労様でした

駕籠に乗る人担ぐ人、そのまた草履をつくる人

みんなの力である

文化祭

(その文化性の高さ・低さ・美しさ・難しさ)の感想

文化祭実行委員長 伊藤 明

今年も、東野文化祭を東野文化祭実行委員会主催で十一月二・三日に実施しました。

実行委員会の反省やその他からの感想・意見を紹介して、来年度に活かしたいと考えています。

・特別展がユニークで温故知新そのものであった。

現在の七・八十歳代の方たちの小学校卒業記念作品(書道と絵画)が、小学校に温存されていて、それが七十年ぶりに目の見ることになった。その作品の家族の人たちは、感慨もひとしおで写真機を取りにもどって記念撮影をする場面など印象的であった。現在六十歳代の女性が、国民小学校の低学年の時、母親の手作りによる実にかわいいリユックサックなどよくぞ作りし、よくぞ保存されたしの逸品であった。

・吉村忠男氏の「花草図案」や丸山百三氏(丸山公昭様の叔父)の二十歳前の山水水墨画四点には、絶賛の声が寄せられていた。

・展示作品の質が年々高くなっている。

・小学生の作品もレベルがあがっている。

・すすすくの若いお母さんの頑張りが実証されていた。

・ポンはざしにしろ、お抹茶にしろ、食事のサービスにしろ毎年ありがたきことかな。

・会場の準備や後片付けなど実に協力的で積極的であった。

・歌舞伎を文化祭の一環として位置づけて、実行委員会としては、なるべく協力態をとった。女性だけの一幕を張れたのは、東野の女性パワーの顕

示であった。二月に市の芸能大会に参加予定。小学生も三月に県のジュニア文化祭に参加予定。いずれも応援をお願いします。

・文化祭への来祭の人数が少ない。ひと工夫が望まれる。

・二十歳代〜四十歳代層の参加が少ない。

・展示作品の質の向上があるものの、もつと気楽に

出展できる方策がほしい。

・とりくみをもつと早くするべきであった。(盆栽出品依頼・特別展など)

◎音楽祭について

※今年で第八回目、当日参加者が三百名で、参加数が徐々に増加しています。アンケートの回答者が、七十三人もありました。特徴的なものを拾ってみました。

・入場料が大変に安く、ふるさと音楽祭に来て本当によかったと思います。

・会津磐梯山、声が出ていてとても良かったです。生演奏を聞くなんてあまりないことです。八回目と聞いてびつくりしました。次回も楽しみです。

・賢沢なひとときを過ごせたこと、とても心にしみ入りました。

・東野ふれあい音楽祭が定着し、非日常的な時間が過ごせる喜びを感じました。

・地元の永野様の独唱、毎年聞けたら幸いに思います。

・内容もこの地域に合わないと思った。曲名ももつとお年寄りにも知っている曲やもつと明るい曲がいいと思った。

・一般的な音楽も聴きたかった。少しレベルが高すぎて疲れました。

・以上のような感想・意見が寄せられました。来年度に活かしたいと思っています。来年度こそ、ご来祭ください。

東野文化祭見学記

市川 義晴

秋の短日の日没は早い、菊薫る文化の日、例年のように東野住民を挙げての文化祭が催された。

館長等の感性と実行委員の情熱がそれこそ素晴らしい未来追及の祭典でした。

新聞、テレビ、読書等で連日安泰平凡の生活から刺激を求めて足をはこびました。

大勢の皆さんで賑わいました。

意のある多数の住民の皆さんが素晴らしい展示品と対峙される姿は真剣でした。

出展者の考える力、英知と精進の跡に敬服しました。それぞれの個性が一杯に表現され圧倒されました。

庄巻は明治人、大正人の家宝と国宝ともいえる書と写真等は私たちの注目でした。幾代も前の父・祖父、祖父の父の学業の清書や、卒業の写真等はそれこそ貴重な蔵品でした、感銘しました。御家族の思慕は又格別であつたでしょう。あの尊いアイデアと斬新な祭典が永劫に続くことを切望して改めてありがとうございます。

住民の皆さんと再会した喜びに感謝します。



芝居は面白い

東野歌舞伎保存会

会長伊藤 秀幸

この秋の東野歌舞伎の公演に際しましては、皆様の多額のご祝儀等を頂戴し、久し振りでチヨボいりの「絵本太功記十段目」(太十)と「忠臣蔵7段目」(忠七)をやる事が出来ました。肩の荷が下りたようで、本当に心より有難く感謝申し上げます。

「忠七」はベテランの熱演であり、「太十」は女優の艶を競う舞台でありました。ともに練習回数が少ない中で立派に仕上げ頂きました。また、各種団体の代表にお願いしている「だんまり」で舞台が盛り上がり、小学生の「白浪五人男」も大変立派に出来たとおもいます。

嬉しいこと到来年の三月十三日には、岐阜未来会館で開催される県下の小学校の発表会に東野小が選ばれて、「五人男」を演ずることになりました。また、その一月前の二月十五日(日)の「恵那市伝統芸能大会」には、東野からは「太十」を出すことにしておりますので、是非お出かけ頂き

ご声援下さいますようお願いいたします。

さて、「太十」の義太夫は、『一間へ入りにけり。残る薔の花一つ、水上げかねし風情にて、思案投首しおるるばかり…』で始まり、十次郎の心理描写を末に生けられた一輪の花にたとえ、見事な言葉で表現しております。また、『雨か涙の母親は、白木に土器白髪かわらけしらの婆ばば、長柄ながえの銚子蝶花形ちやうしちょうはながた、首途かどを祝う熨斗昆布のしこんぶ、結ぶは親と小手脛當こてすねあて、六具固むる三三九度、この世の縁や割りこざね、猪首いかびに着なす鉄形くわがたの、あたり眩まよひき打扮いでたちは、爽さわやかなりし其骨柄そのこつがら…』と語り、更に「…不義の富貴は浮かべる雲、…たとえ將軍になったとて、野末のすえの小屋の非人にも劣りしとは知らざるか。主に背かず親に事つかえ、仁義忠孝の道さえ立たば、もつそう飯はんの切米きりまいも」の皐月さつきの科白せりふに続き、『百万石に勝るぞや。』と義太夫が結びを強調する。

このわずかな言葉の中に、口語にすればその何倍にもなる内容を、掛詞やたとえなどで巧みに凝縮し、舞台の道具立てから情景のみならず、登場人物の心理まで描写している。作者の和漢に通じた文才と、日本語の素晴らしさに舌を巻くのみである。それに、役者の衣裳や髪かつら、化粧けわい、隈取くまど

など、その奥の深さに先人達の智慧と工夫を垣間見る想いがして、実に面白い。

この歌舞伎を大切に伝承するために、来年は小中学生に呼びかけ、保存会の活動として少年の部を作りたいと考えております。地域の皆様、特に親御さんに御理解と御協力をお願い致します。また、来年度の公演は色々なグループや自治会単位などでご出演頂くなどして、さらに一層の盛り上げを期待しておりますので宜しくお願い申し上げます。



ふれあい体育祭

体育祭運営委員長 伊藤 正信

平成十五年十月十九日(日)の東野の空は雲ひとつない秋晴れとなりました。

昨年は残念な事に、用意万端準備はできたのに雨のため中止せざるを得ませんでした。

しかし、今年こそはと晴天を願いながらそして、多くの住民の方々に参加して頂き、より良い体育祭になるよう、自治会長の代表、体協の役員の方々に何回も協議を行いました。プログラムには特に工夫をし、又県道(阿木大井線)を境に南北対抗とし、少しでもマンネリ化を無くそうと試み、今回の体育祭のはこびとなりました。

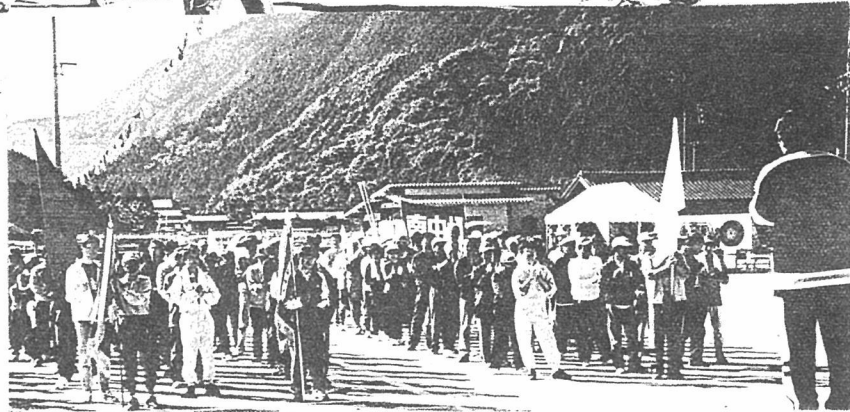
さていよいよ当日。東野じゅうから大勢の方が参加されました。

見物する人、競技をする人、出場メンバーを集める人、それぞれ大変だったけれど楽しい一日となりました。

見物する人、競技する人、出場メンバーを集める人、それぞれ大変だったけれど楽しい一日となりました。

伊藤明大会長のおはなしで、七百名を超える参加者で盛大な体育祭になった事を「評価」していただきました。それは又参加されたおひとりおひとり、東野小学校の子供達、又救護の方、放送係の方、実行委員会の方々等のたまものと心より感謝の気持ちでいっぱいです。

東野の皆様のご協力が無い限り、この成功はないと



思います。

来年も、さらに楽しく明るい体育祭を目指して、大会関係者一同頑張っていく決意です。そしてさらに皆様のご協力、ご指導をよろしくお願いいたします。

本当にありがとうございました。

“素人歌舞伎の醍醐味” 見得切り

三宅 直子

図らずも、私どもに歌舞伎出演の話が舞い込んできた。仕事柄、伝統芸能の保存を支援する身ながら、図々しくもお引き受けすることにした。ところが、娘が以前、子供歌舞伎で演じたのが(絵本太功記)の武智十次郎とのことで、奇しくも親子で同じ役を演ずることとなり、恥ずかしいやら、嬉しいやら……初めての稽古、台本を手に戸惑うこと暫し。「今生のお暇乞い?」まずは言葉一つ一つの意味を教わり、口移しで台詞の云いまわしを習う。その後、所作が加わると、もう頭はパニック。刀の持ち方、振り回し方、遣られて登場する場面では、その歩くことさえ俣ならぬ自分が情けなく、ビデオにかじりついて毎日猛特訓。

本番は、化粧をして衣裳を着付けていただいたら、まるで別人。お蔭で、上がることもなく無事、大役を果たすことが出来た。多少のトチリはあったにせよ、それも芸のうち。

知人に「東野だから、歌舞伎に出られるんやに。恵那市や中津川だったら、絶対役者になれんよお。」と云われた。正に然り。

皆さん、折角、恵まれた環境に居るのだから、是非歌舞伎デビューしませんか。気づかなかった東野の魅力、新たな自分を発見し、伝統文化から学ぶ先人の思いを忍ぶことができますよ。

貴重な体験をさせて頂き、高女師匠、保存会の皆様、観に来てくださった皆様方に多謝百拝。百聞は一見(験)に如かず。2月の伝統芸能大会も役者一同頑張りますので、是非ご観覧を。

むづのわたい

その一 蛍の里づくり

今年も十二月六日、青少年育成会議、東雲会合同で「蛍の里」 定蓮寺川のヨシの刈り取り清掃作業が行われました。

ここ数年定蓮寺川での蛍は増えており、今年六月の蛍祭りには多くの参加者でにぎあいました。あの感動を来年も再現する為の、地道な作業です。

蛍は六月の僅かな期間ですが「夏の風物詩」として楽しませてくれ、また、地域での環境保全に務めているかのバロメーターとも思われます。生い茂った枯草の除去、新しい水草の生育、石や砂の堆積、瀬、淵……水生生物はこんな条件をこのむようです。子供たちには、昨年に続き千藤健逸さんをお願いして「ぼたる学習」を開き、作業の目的、ぼたるの生活を学び、川に捨てられているアキ缶、ビニール類を拾い集めました。

そして、まず河川を汚さない、カワニナを育てる……事の大切さを学びました。

来年夏の蛍の乱舞を楽しみに、地域ぐるみで川を守り蛍の環境・保護に努めるイベントでした。



その二 冬に咲く桜

この時期淡い緋色で咲いている桜を見かけます。

東野地内でも茄子川農道東邦パック工場前、ハイカラ橋南、向島阿弥陀様登り坂、小学校慰霊塔前でも見られます。

種類、呼び方には、寒桜、冬桜、四季桜、十月桜などがあるようです。

春咲きの桜のような華やかさはありませんが花の少ないこの時季、足を運んでみては……

このうち阿弥陀様登り口の冬桜は一見の価値があると思います。



その三 がんばりました

東野ゲートボールチーム

各種の大会に出場し成績は次のとおりでした。

九月二六日

恵那地区交通安全教育GB大会 準優勝

十一月七日

阿木川公園記念GB大会 準優勝

十一月一八日

恵那市老連GB大会 優勝

出場者 渡辺英夫、西尾登、土方嘉章、

神谷正枝 土方いと子

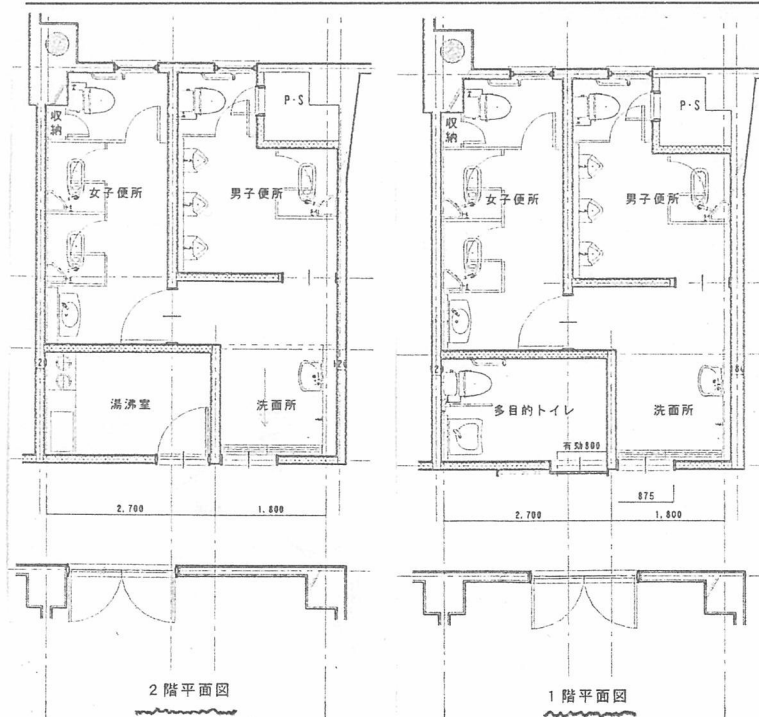
おしらせ

公民館トイレ改修

今年度公民館のトイレの改修については既に決定していたが（既報）、設計図書もまとまり、年明け着工、三月末完成のスケジュールですめられます。

利用者には大変ご迷惑をかけます。工事中も館は使用できますが、屋外での仮設トイレを利用願うこととなります。不便をおかけいたしますが、一時のご辛抱をお願いいたします。

尚、多人数の会合等は可能な限りこの期間を避けられた方がよろしいかと思います。



恵那市市民祭 入賞者（東野分）

高齢者作品展

絵画・写真の部

特別賞

土方 和子
渡辺 英子

美術展

日本画

努力賞

依馬 英子
入選 長谷川三千夫

洋画

入選

若尾 義弘

彫塑・工芸

市展賞

小林 一雄

書道

教育長賞

渡辺 泰江

写真

努力賞

三宅 一嘉
丸山 年道

短歌

入選

鈴木喜一郎

北極に星は輝きあると聞く

ガラスのようなオーロラの上

（ジュニアの部）入選 林 涼音

そろばんのパチパチする音しかしい

むなしいそろばん教室

（々々）入選 長谷川 諒

絶対に打ってやるぞとピッチャーを

にらみかえしてバットがまえる

（々々）入選 千藤風羽音

森のなかしんみり静かでやさしい色

ずっとここに住んでいたい

（々々）入選 西尾典晃

お母さん話しかけると答えるの

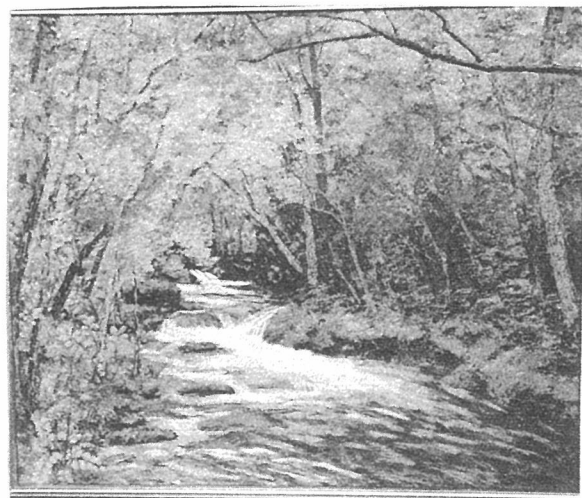
ねむっているの不思議すぎです

特選 土方晴規

振り分け荷塩味山椒茄子の馬

入選 河村英子

俳句 馬づらの人に曳かれる祭馬



依馬英子さん作品



土方和子さん作品

入選 内木伊都子
くつきりと眼鏡のあとや日焼けの子

入選 千藤恵三

稗抜くや凶作の記事憂いつつ

すくすくクラブ

今年もサンタさんに出会いました。

十二月五日、恵那市市民会館にて、乳幼児学級合同クリスマス会が行われました。初めての合同クリスマス会ということもあり、たくさんのお親子が参加しました。いつもは元気に友達と遊ぶ東野の子供たちも、たくさんの人を見て少しびっくりにした様子でした。

市民会館の壁には、各学級の活動様子を紹介した展示物。クリスマス会の歌に合わせてのエアロビに「イエスノークイズ」、学級生による歌の発表と、手づくりの内容が盛りだくさんでした。他の学級と交流する機会が少ないお母さん、子供たちにとっても良い刺激になったでしょう。

私達公民館主事もピアノ力演奏の発表をがんばりました。「今まで一番真剣な顔つきだった。」と言われるほど緊張している様子でしたが、会場から演奏に合わせたの歌声が聞こえてきた時は、とてもうれしかったようです。（実はこの日のために夏から練習をしていたのです。）

最後はサンタクロースの登場です。三人もサンタさんが来てみんな大喜びでした。プレゼントももらいました。

十二月十九日にはすくすくクラブのクリスマス会を行いました。「ランプ」の皆さんによるパネルシアターの歌と劇を子供たちは楽しそうに見ていました。

すくすくクラブの子供たちは、今年は2回もサンタクロースに会えました。みんなサンタさんとの約束をちゃんと守っているからだね。来年もまた会えるといいですね。

（か）

——東野くんないっ!!——

「JRさわやかウォーク」取組み記

晩秋の十一月二十四日「JRさわやかウォーク」が東野地内をコースに行われる事となった、まず、「東野の人情と自然」をキャッチフレーズに……早速「地域を美しくする会」の皆さんにはコースのゴミ拾いをしていただけた事となった。また東野公民館では休憩所を引き受けることとした。受けたからには「東野の顔」としてお客様を迎えなければならぬ。「なんだこんな所か」でなく、すくなくとも「きてよかった、又来よう」と思われるように図らねばならない、幸い今年立ち上がっていただいた公民館協力委員会の皆さんが六月の風穴整備、十一月の文化祭準備に続いて今回の「JRウォーク」にも取り組みお茶のサービスを引き受けることとしていただき、更に呼びかけに「虹の会」も応じていただけたこととなった。心強い。

しかし、果たして何人分準備すれば……? 天気がよければ二千〜三千人とも……雨なら三百〜五百かもしれないとの情報——一週間も前から天気予報を見て一喜一憂する日が続く、前の週(十一月十六日)には釜戸での「竜吟の滝、大湫の宿コース」へ視察に行ってもらった。「虹の会」も思い切って〇〇百人分の食事等を準備することに……さて、当日を迎える……曇ってはいるが雨はなさそう。

休憩所としての雰囲気はどうか、あまり派手でもなく、自然体で、テント、椅子、机の数は、バザーの配置は、トイレは……チエック、九時ころからどんどんお客様が増え、五平餅、ぜんざい、豚汁、古代餅、コーヒ―等のバザー

は賑わい「虹の会」も忙しい、そんな中でもお客さんとの対話も楽しい。

その例

○ 昭和二十年ころ神社の下の工場(恵東座と思われる)で中島製作所(航空機関連)の仕事で働いた。

○ お寺の松本さんという方で(学童疎開で)お世話になった、これから尋ねていきたい、どのあたりでしたか

○ どの家も大きく私の家などスッポリ入ってしまう

○ 五平餅が美味しい、また機会があれば来たい

○ このウォークは地域の人との対話が楽しい

当日は二千六十五名(JR発表)という参加者、東野総人口以上の人数とある。

予想外の人数で午前中に売り切れ申し訳なくお断りする始末、僅か五〜六時間、初めての取り組みであったがバザーをとうしての対話、またお会いしたい人、二〇〇〇人が通り過ぎ、次の目的地へ向かわれる、さわやかな晩秋の日でした。

労を惜しまぬ会(地域を美しくする会、虹の会、公民館協力委員会)の皆さんに恵まれ一日が終わった。

丁寧に冬帽子取り列れけり

(文責 千藤恵三)



公民館ボランテア

公民館を使用されているグループの皆さんにより館内の清掃等を行っていただきました。

◎ アヤメ、シヨウブの会

日頃使用されている調理室の食器棚、ガスコンロなどの掃除

◎ むつみ会(大正琴グループ)

館内のトイレ、ガラス拭きなど
ありがとうございました。

1月の東野公民館催し案内

その1

◆年賀状展◆切り絵展◆

1月15日(木)～31日(土)

その2

◆明治～昭和3代生活用具展(東雲会、公民館)

(14日までに展示品お貸しください)

1月15日(木)～31日(土)

その3

◆ふるさと書初め展(青少年育成会議)◆

1月18日(日)～30日(金) 小学生の部

1月24日(土)～30日(金) 中学生の部

表彰式 1月30日(金) 午後3時30分

休館日(変更の場合があります)

確認の上ご使用下さい)

1月

1日～4日・12日

13日・19日・26日

2月

2日・9日・11日

16日・23日・

3月

1日・8日・15日

22日・23日・29日

(東野の民謡)

お正月はよいもんじゃ

お正月は よいもんじゃ

ちゃん ちゃんと 羽根ついて

雪のような まゝ食って (飯)

氷のような もち食って (餅)

葉っぱのようなトト食って (魚)

油のような 酒のんで

お正月は よいもんじゃ



鈴木喜一郎さんから「歌集蛍火のごとを公民館図書に寄贈いただきました。」

「青年団の短歌グループ「緑土」のころから年代別に三七五首が綴られています。」

巻頭には「残像の知覚に光る蛍火のごとき想出さわさとゆれ」とある。ご自由にご覧下さい。

図書室には他に次のような自費出版の冊子があります(東野関係分)

歌集 恵那山 市川志津枝

回想 千藤茂美

句集 豆の花 丸山益夫

句集 恵那 鈴木弘道

茅舎に学んだ人々

越冬鶴

鈴木家の人々

句集 寒土筆 市川芳子

私の教育相談 長谷川博美

白坂

碑文が語る

恵那土地改良 神谷昭吾

土方邦順追想集 土方六須夫

いのち輝きて 他

回想 千藤恵三

あとがき

2003年、今年もいくつかの地域行事が行われた。年中行事的なもの、新たに工夫され取り組まれたものなど……。

どれも、たった1日の行事であっても数ヶ月前から協議され準備される、色々な人それぞれが得意な力を出しあい、それが貴重な力となって成り立っていく、ありがたいこと、感謝。何かを遂行するには「発案者」「賛同者」「支援者」「参加者」があつて事が成り立ち「成功」といえる。

「どんど」行事がピンチと聞く、以前は一月四日朝、子供たちが門松を集め、所定の川原などで十四日早朝燃やしていた正月行事である、確か東野で七〇八箇所が立てられ、大きさを競った程であった。

しかし、今では、子供も減り、又、子ども達にも「どんど」作りの楽しみも薄れているようである。

リード役であった子供会等もやや弱体化し組織的なリードは困難となり、最近では地域の自治会等の自主的、自然発生的に行われている。

暮の門松迎え―門松立て―門松集め―どんど立て―どんど焼き―餅焼き―……こんな正月の風物詩、例え、恵方竹は小さくても、立てる地域を編成替えなどしてでも続けたいものです、幸い今年も行われるようである、守り続けたい地域の伝統行事である。

皆様よいお年をお迎えください。

(館長)